

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	盛岡手づくり村振興事業			事業コード	0547
所属コード	131000	課等名	商工観光部 商工課	係名	工業係
課長名	沼田 秀彦			担当者名	熊谷 朋宏
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般	<input type="checkbox"/> 公の施設	<input type="checkbox"/> 大規模公共事業	<input type="checkbox"/> 補助金	<input type="checkbox"/> 内部管理

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	まちに活力を与える工業の振興	コード	2
	基本事業	中小企業の経営力の強化	コード	4
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 2 目 盛岡手づくり村振興事業 (003-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 单年度	<input checked="" type="checkbox"/> 单年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度 昭和 61 年度
根拠法令等	無し			

(2) 事務事業の概要

盛岡手づくり村への来場者増加、地場産品の売上向上、地場産業振興、地域人材の確保と養成を目的に、盛岡手づくり村の管理主体である（財）盛岡地域地場産業振興センター、各工房の活動を支援すると共に、盛岡手づくり村内の市有施設の維持管理を委託により実施する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 61 年盛岡手づくり村開設以来、（財）盛岡地域地場産業振興センターに盛岡手づくり村の市有施設の維持管理を委託している。当該財団は、盛岡地域の地場産業振興を目的として設立されており、盛岡手づくり村の運営主体のひとつである。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。（3）からどう変化したか。

盛岡手づくり村施設は、建築後 25 年以上経過しており、修繕を要する箇所が頻発しているほか、地場産業振興センターの公益法人制度改革への対応とともに今後見込まれる大規模修繕や設備の更新に対する資金支援など計画的及び重点的な予算配分による取組が求められている。

2 事務事業の実施状況（Do）

(1) 対象（誰が、何が対象か）

盛岡手づくり村への来場者と（財）盛岡地域地場産業振興センターの運営状況が対象。

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	24年度 見込み
A. 来場者数	人	515,974	486,115	535,000	460,125	535,000
B. 市有施設維持管理費	千円	4,260	4,408	4,474	4,474	4,474
C. 振興センター運営費補助金	千円	45,000	45,000	45,000	45,000	45,000

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

- ・振興センターとの各種打合せ
- ・市有施設維持管理業務の委託
- ・ふるさと雇用特別再生基金事業及び緊急雇用創出事業に係る業務の委託
- ・振興センター運営費補助金交付契約
- ・振興センターの各種活動に対する助言
- ・手づくり村まつり等催し物に対する助言
- ・突発的に発生する修繕箇所への対応

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	24年度 目標値
A. 契約等事務手続き	式	1	2	1	3	3
B. 臨時の修繕等への対応回数	回	0	2	2	3	2
C. 振興センターとの各種打合せ等	回	47	45	50	62	50

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

- ・盛岡手づくり村来場者を増加させる。
- ・振興センター内即売室の売上を向上させる。
- ・振興センター運営費補助金を減額する。
- ・手づくり村入居者及び来場者の利便性を確保する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	24年度 目標値
A. 来場者数の前年比較（本年來場者数÷前年來場者数）	■上げる □下げる □維持	%	102	95	110	95	116
B. 振興センター運営費補助金の前年比較（本年補助金額÷前年補助金額）	□上げる ■下げる □維持	%	100	100	100	100	100
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	4,005	8,259	10,080	16,544
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	51,259	50,834	51,250	51,170
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	55,264	59,093	61,330	67,714
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	500	500	500	500
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	2,000	2,000	2,000	2,000
計	トータルコスト A+B	千円	57,264	61,093	63,330	69,714
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：手づくり村の活性化が地場産業界の経営力強化ひいては中小企業の経営力強化につながると考えられる。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：手づくり村は、盛岡地域の中小企業の振興及び観光振興に必要不可欠であるため。

③ 対象の妥当性

妥当である。

理由：手づくり村及び手づくり村中核施設である（財）盛岡地域地場産業振興センターの利用状況及び運営状況を把握・向上させることが地場産業振興に重要と考えられる。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：入居工房の死活に関わるとともに、地域地場産業に与える影響が大きく、また、市の観光に対する影響も大きいと考えられる。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上余地がある。

その内容：手づくり村の来場者増を図るために既存事業等の見直し及び新規事業の実施等を行うことによって成果が向上する。

(3) 公公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

公平・公正である。

理由：盛岡手づくり村は、市、地場産業振興センター及び協同組合手づくり村の三者で運営しており、受益者である当該三者による協議等を行い、適正な運営を行っている。また、公益的事業として相応の負担をしている。

(4) 効率性評価

事業費の削減がある。

その内容：事業費自体は地場産業振興センターの運営の効率化や収益性の向上により節減できる可能性がある。また、人件費については、手づくり村の運営強化を図るために市が会議へ出席すること等に要するものであり、最低限の内容で実施しているため削減できない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

盛岡手づくり村はものづくり地場産業の拠点施設とともに観光拠点施設として重要な役割を担っており、これを維持・発展させるため、地場産業振興センターの運営支援を継続し、センター公益法人制度改革への対応を進めていくなかで、公益事業の拡大や今後見込まれる施設の大規模修繕及びリニューアルを検討していく。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

盛岡手づくり村の重要な役割を担う施設の維持や今後見込まれる大規模修繕及びリニューアルを想定した資金調達方策に課題があることから、地場産業振興センターとともに研究を行っていく。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

東日本大震災により入場者数は、前期より減少したが、復興応援を背景に売上は増加したものの、累積損失を解消できない状況が継続している。また、公益法人改革の取組には成果が上がっている。施設老朽化への検討も深めている。

今後、一層の経営基盤の安定化を図るため、目標に向かってセンターの職員が一体となった行動をとるよう支援するとともに、関係する組合や出店業者等と連携を推進する。